

叙

一月隣家の書子僕が机に傍らに控えて云ふ

是を友とて其の如くあつては世界成るや五大洲を

一たび廻るの事何れと我りや何れの大

其の内より英吉利何と云ふ沙に都之也僕

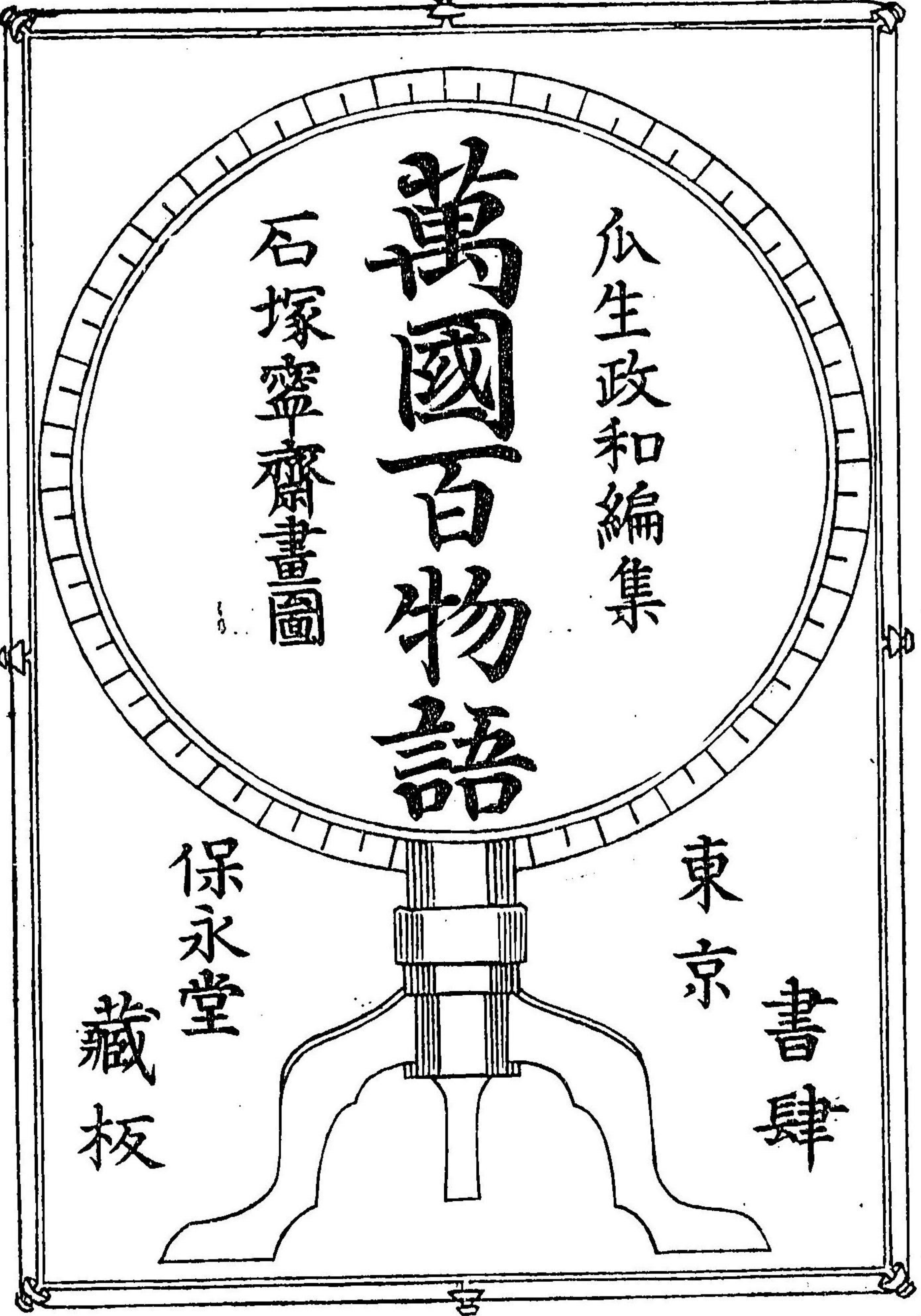
歎くは所惟の時後世忍ぶべし實に文部所

化に秋たり初学の幸に満ちると早已に此

間あり教えざんば多きと云ふ一時の奮發よ



石塚寧齋畫圖



瓜生政和編集

萬國百物語

石塚寧齋畫圖

書肆

東京

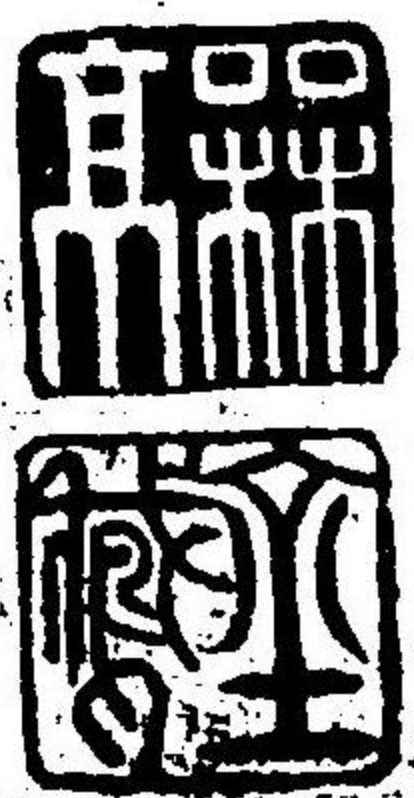
保永堂

藏板

懶惰と忘と彼の書あのお我捨れり珍ら
多かるるものありて一ニテ條々拾ひ出り
お伽話と做しよ早晩お大なる令必我
君一六果七老とありよあり
童遊人の看せし春の朝お赤巾よ換
んよ念起り多下よ拙たるとも憚り多
梓よ上た事しつるをく元より不学海見
の捨と新しむらと古とあり且通りの名と

用記んと為る故英佛語榮花と雜る
地理書と稱する程ゆとわげ物産記
云ひ難きと以て童子よ語せしを憚と
此書の銘に負し華國百物語と題する
小南堂

瓜生政和速



全 洲 之 圖



歐 羅 巴 之 圖



地圖之全圖

○一の巻目録

○ 歐羅巴全ちのえり

一丁

○ 土耳其國のえり

四丁

并 属必のえり

○ 魯西亞國のえり

九丁

并 属必のえり

○ 普魯士國のえり

十八丁

并 属必のえり

○二の巻目録

○ 奧地利國のえり

一丁

并 属必のえり

○ 西班牙國のえり

八丁

○ 葡萄牙國のえり

十七丁

○ 赫勿婁亞國シユリセの
滝のえり

二十丁

○ 伊太里國のえり

廿一丁

并 列必のえり

○通計十四條

○一の巻目録

○ 歐羅巴全まうのえあ 一丁

○ 土耳其國のえあ 四丁

并 属必のえあ

○ 魯西亞國のえあ 九丁

并 属必のえあ

○ 普魯士國のえあ 十八丁

并 属必のえあ

○二の巻目録

○ 奧地利國のえあ 一丁

并 属必のえあ

○ 西班牙國のえあ 八丁

○ 葡萄牙國のえあ 十七丁

○ 赫勿婁亞國シユリセの
滝のえあ 二十丁

○ 伊太里國のえあ 廿二丁

并 列必のえあ

○通計十四條

凡例

- 一 里数ハ我三十六丁の一里ハ垂一尺ヨリ我曲尺ハ垂一量目ヨリ量目ヨリ量目ヨリ用也
 - 一 弗モ垂るべき所のハ過世のお場ハ合せ何十何處と稱ぶ記ハ
 - 一 何年あるに在るハ明治五年より遡り算入し
 - 一 十百年前と在るハ西洋の紀元よりあり
 - 一 書中の繪圖ハ只本とするハ其の位置を記せしむ
- とて具ありねども其の童蒙ハ安んず欲しとあり

東洋香商語卷之一
書籍類

東京

瓜生政和編集

○歐羅巴ハ世界中の部

歐羅巴ハ往古の希臘國の帝都の名ありて繁昌
 みるふ方ある市町ありけと土地の人其花やうる
 と慕ひ遂小全島ノ總名と為せりとぞけ國五大島
 の中ふてハ最も小狭くして世叟の陸地と十四

割て其一分小居り魯西亞の領分とて半小過ぐ
 然まども人口の二億六千五百四十一万餘小して世鬼
 の人口と四ツ小割り其一分と有ツとる國の疆域
 北の氷の海小至り東の亞細亞小烏拉爾山北
 高海黒海等を以て界とる一南の地中海亞非
 利加加小隣り西の亞太臘海小限る國と分て北中南
 の三ツとる一時候の都て寒く惟南の方の海小
 向ひたる地の暄暖るり人の風俗の國所小因りて

種々まども大概一人の男一人の女と守り身柄をま
 人ふくも妾とを囲ひ女まどもとめるとる一言辞ハ三
 種小別と一小羅甸語羅甸の今の伊太里あり佛
 索西西班牙葡萄牙まども是小原く二小獨逸語
 英吉利和蘭噠國瑞典及び日耳曼列國之小原
 三小斯刺勿泥亞語翁加里亞魯西亞土耳其之小
 原く通用の貨幣ハ金銀銅と用也
 紙の札とも用也まども大札斗り小札ハ

遠方えんぱうの狩かりとら近ちかき畔はたりふくも金高多きんたかおほきとら
 持運もちりんび取扱とりあひとら小不自由ふとぢゆうある故ゆゑ千両万両の大金たいきん
 おくも札さをまじまじる衣服いふくの隠かくへも入いらるるの便べんきと
 以もつて是これとそふ金銀きんぎん不自由ふとぢゆうあて持もちへる物ものふ有あら
 ざまざまび小札せうさのああく大札たいさををりありと云いふ
 人ひとの全国ぜんこくとも小身こみの丈大やうだいきく髪かみの唐黍たうもの毛けお似お
 て眼めの瞳紺色ひとこゑいろあり性質うまれつき伶俐れいりく天文地理てんぶんちりもも術じゆつ
 藝げいふ達たつす常つねふ大海たいかいふ船ふねと浮うべて外国がいこくと交易かうぎ

通商つうしやうすりと好まむ食糧じきりやうへ麦むぎふて製衣せいへる蒸餅むせんとて
 饅頭まんぢうの皮かわの乾かわき一いち移うつる物ものと牛豕うしざの類るいひの獸肉じゆうにくと用もち
 由衣服いふくの筒袖つづも白しろの肌かわ着き股引ひざひきふて皮かわの踏ふと履家きんぎょの石いし
 或あるひの煉化石れんがせきふて畳畳の四五階いごかいより六七階ろくしちかいの高たかさふ至いた
 る當時たうじ全刃ぜんじんと十六じふろくふ分け其中そのちゆうふ帝国ていこくと称いふするもの
 四よツあり土耳其とるき其国そのくに魯西亞ろしや国くに澳地利あうぢり国くに普魯士ぷろし国くに是こゝ
 ありあり仏蒙ぶつもう西国せいこくも去年こゝろまぐの帝国ていこくありありが三世さんせい
 の帝てい拿破なぱ崙ろんとらふ人ひと普魯士ぷろし国くにと戦争せんそうふあふび

えろつを諸島分る



。まじりやあやまら
 らあやのあまみかひ

負て降参る一けとバ共和政事の国とありたり
其外王国侯国共和政事の国々あり

○土耳其國のたる一

○土耳其の歐羅巴及中の南よりの地よりて歴山
王と言ふ人の生ま一所あり歴山王の智勇を双
の大將をまバ歐羅巴及亞非利加及と切從ぐ之
亞細亞及と伐平らげて一天世界の国王ふ成んと
思ひ先印度と攻んとけりしが印度へ渡り大沙漠と

大いあるゆゑの六百里も六百里もある布と旗すなり故
歴山王軍とけ原中へ向るる熱国の沙地の暑さと
水の乏しく苦一兵卒多く死一けまバ敵国まで
至らざる一軍勢と本国へ引返一王のその後酒
當りて死せりと言ふ歴山王の世鬼名高き豪傑
あり國の首都と公斯璫低諾波爾とり當所
切支丹宗門の本山羅馬國の帝の東の都とせ
舊跡ふて領分の亞細亞及と亞非利加及ふ跨り

威勢廣大なる故に歐羅巴及び不在りて他の諸
 島の會盟小列るらず超然として獨立あり法教の
 嗎哈默多とり人の宗門回教と用ひて以
 年号も他の国と同トらず嗎哈默多の亞非利
 加之の中亞拉比亞國ある黙加とり地ふく生と我
 宗門と宗んとせしより耶蘇宗の者お憎まれ終ひ
 けの麥地拿と云ふ所へ進來り始めて回教の盛ん
 ありふ至る因りて嗎哈默多の麥地拿來り



土耳其人
 強弱
 のん

年と年号の紀元と定む嗎
 哈默多の麥地拿來り
 日本明治五年より千二百
 二十八年やどあ的事あり
 土耳其人の勇氣盛んゆ
 へ死とを懼とらず故に伊太
 里の國の人是と諺へて他の
 歐羅巴の人五人ありても

土耳其の一人ふの敵に難しと言ひしが英吉利は
 蒙西魯西亞とのみく鉄炮の術大いふにけし
 夫より戦ふ毎ふ土耳其人敗北し領地を失ふと
 少なるがらず因りて伊太里の人まゝの評して土耳其
 の人の五人へ他の歐羅巴人の一人ふ敵すべからずと
 言ひ爰ふ於て土耳其の人憤怒ふ堪えず大いふ
 鉄炮の調練を爲し武威古しふ十倍す今より二
 十二年おふ英吉利は蒙西魯西亞と共ふ魯西亞と戦

ひて勝とぞ得たり

け国の海の中ふ歐里普斯と言ふ所ありけ辺の海
 の潮の一日の中ふ七度づ満干あるあり往古の賢人
 あり歴山王帝の師匠亞利多と言ふ人其理を
 見届んと種々ふ勉強とぞとも知とぞ然とぞ強
 て是を究めんとぬ遂ふ海の水のぬふ死しと
 言ふ又その近を傍の海の中ふ哥斯と号する島
 ありけ島の歐羅巴中の名医依ト加得とらふ人の生

まじり地あり

當國ハ歐羅巴中の上国ヤリて寒暑程よく万の物
皆備あり米と以て常の食糧と為す土地の人嗎
哈黙の教えと信仰すると以て豕の肉と食ひ葡
萄酒と飲とと嚴しき禁物と為りあり

この國の鼻祖ハ土耳其斯坦まじり獨立鞏固とも
言ふ國の阿斯滿と呼ぶ者ハ智勇兼備の英
雄あり一夫匹夫より起り所々の戦争ハ討勝て終

小土耳其の帝とあり今も彼の子孫ハて相統せり
とぞ

○亞細亞土耳其ハ往昔那多里亞と言ふ

西ハ比耳西亞ハ小ト云海ハ地中海ハ突ハ
亞細亞ハ西の外ハ隅ハあり狭ハ海と隔ハ歐
羅巴上耳其ハ連あり亞拉比亞ハ跨り亞非利
加ハ地ハ多ク大ハ沙漠ハ多ク中ハ大ハ水ハ
於府百三十ヶ所あり然れども人ハと去地ハ後

割多の少一といは只餘昌るるの士麥拿大馬士華の二
 ツの府下るるは阿ハ何とも人口十万人おこぐ余ハ
 万お及ぶりの九ヶ布二万おあるりの北六ヶ布とら
 古代ハハ勢ハハ盛大る地あり一が土身其帝の先
 祖阿斯滿のぬハ攻取らると終ハ其領分とあり
 ころハ地ハ怪一ハ湖水あり是と死海と号ハ魚
 の類一切生ずるを其水清浄ハ一ハ底ハ魚
 皆透徹ハ見ハ程ハとハ鹵氣甚ハ多ハ

故ハ岸の畔ハ常ハ塩の凝リ固マハるありハ
 水ハ試ハ物と投入ハとハ石金の如クハ重
 々ハ沈マズ又旅スル人其湖の近ハ畔リと通
 水より立昇ル蒸氣ハ觸ルハ衣服儂ハ身
 湿ト受ルハ小覚え後二三日と経ハ其衣服
 とも腐ト壞ト物ハ用ハ立ズトハハ湖ハ
 より東ハ當リハ歐法臘得トハ名高ハ大河
 先流ハ景色ハ美ハなる画工ハ筆と捨ハる

歴山帝の舊跡あり當地の時候温和あり五穀金銀多きと以て近き四辺りの国々亦其の天下の棄土と為するべき温泉あり數十ヶ所噴出するも然る所の病氣を愈はと云り

は国ハ亞細亞の方ハ屬するものと雖も歐羅巴土耳其と地を連続せり且その領分るるが故ハ爰ハ記す

○翁加里亞及び名酒甚多其品四百種餘

及び中トカエルと言ふ酒と最上と有す又國の首都トリスベルグ府の近傍ハ大いなる河有り鯉魚の生と鰍と子と摺らるるハ兩方の岸ハ飛騰とて以て人是を捕ふぬ

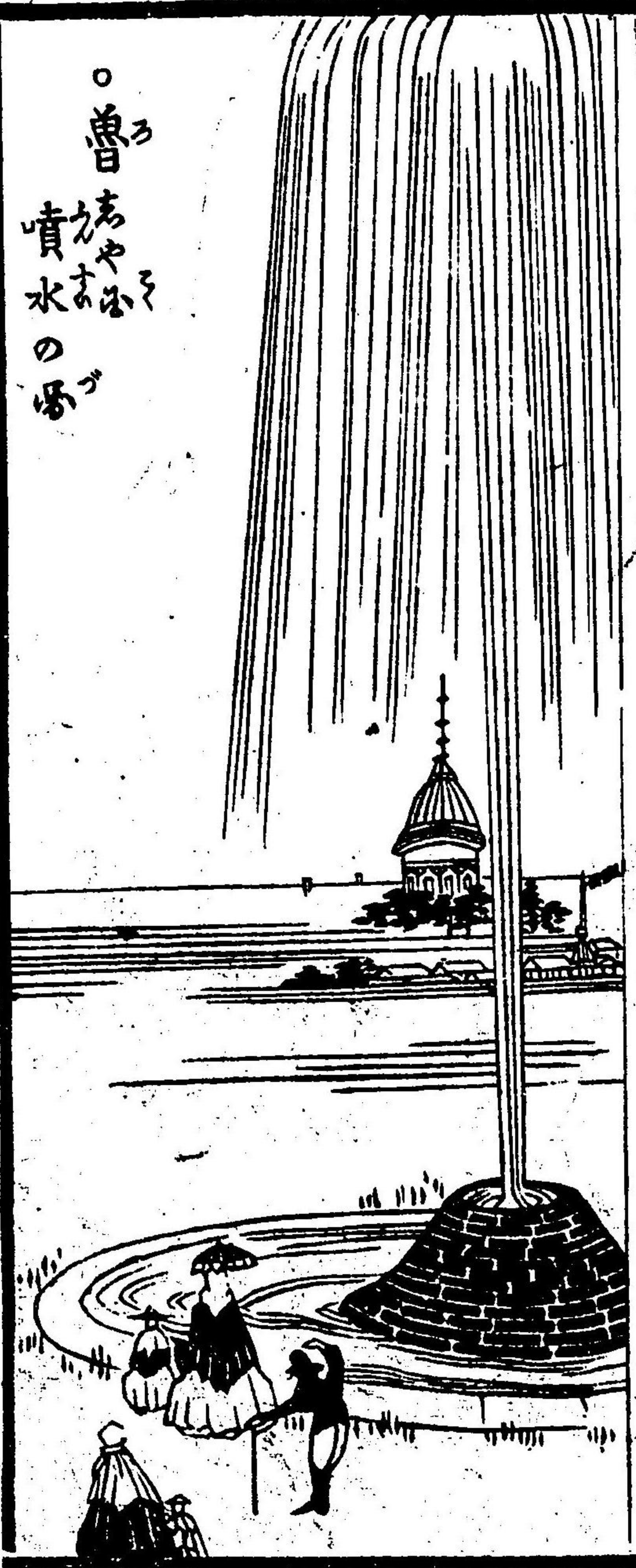
○魯西亞の在るハ俄羅斯とも云ふ

○魯西亞國ハ世界第一の大国にして歐羅巴及び始

亞細亞あしあ及およ小漫行こまんぎやう亞米理加あみりか及およ跨またる我が日本わがにほんと云い領りやう
 地ちすぐ小打雜こうちざつる小至こしる気候きこうの總ともく寒さむくと甚たま
 ぐとら小至こしる水銀すいぎん凝固こうこうつて流ながれど動うごくとる
 北きたよりの地ち小至こしるくと冬ふゆの中ちゆうの常つね小薄夜おほろよの如ごとく
 小こして降積ふりつりと雪ゆきの野山のやまと埋うめ 白銀しろぎんの海うみ
 小似こにたりとぞ
 當国たうこくの首都しよとと伯得爾堡べいとるとよら町の中小
 天主堂てんしゆどうあり棟むねの高たかと十丈餘じゆじやうご柱はしらとる青丹塗あせぬり

小こして花はなと画ゑかけり本堂ほんどうの前まへ小在ある石いしの門かどの大柱おほいばしらの
 周田しゆうでん八尺はつしゃく小餘あまる洵まこと小大おほいる鉅工こほくあり
 王宮わうきゆうの高樓たうろうの上うへ小国帝こくていと其その后妃きさきの冠えむりと收あむ帝てい
 の冠えむりの正中しんちゆう小大おほいる金剛こんごうの鑽石せんせきと一ひとツ置おきとりけ石いしの
 價あ千百万せんまん金きん小過すると言いて百年ねん以来いらい未ならば價ねと定さま
 むると多おほく毎年まいねん三万金さんまんきんと其その買主かひぬしへ拂はらひて今日こんにち小
 至こるとまぐと止やまずとぞ
 又また国帝こくていの行宮ぎやうきゆう小地ちの下したへ鑊くわくの管くだと埋うめ河かの水みづと

引ら是と吹揚らする処あり水の突昇る二十丈餘遠
 く救とて望こ見よぐ水晶の柱と建くるが如く水と
 吹揚らするの仕掛はけ国小及ぶ所あり



○曾志やふ
 噴水の塔

西南よりの地方小馬林博爾とらふ地ありけ処の河小
 大いある鉄の橋と渡せり長さ十五町餘高さ四丈
 小過ぐけ鉄の橋と造るの失費百五千万兩あり
 一と言ふ

け国へ噀国のコリクとらふ人渡り来りて用さ
 始め領分追々廣がりてとて野蠻国の風あり
 ると伯徳琛とらふ智恵ある大将の代ふりて
 是と忝さんと自ら兵卒小雜りて調練をす

和蘭へ往て船大工と成り英吉利へ渡りて時斗の
 職と覚え地利とりよ國へ越て陸の軍の警告
 と文藝武術の言も更お諸職人の手業もど
 残らず学て後國の仕法と尽く取替へ只一代
 ありて文明昇化の世とありてり魯西亞も王国
 ありて伯徳琛ふ至りて始めて帝の尊号と初
 りり伯徳琛帝の如き人の魯西亞昇化以来前後
 皇類の大將ありとぞ

け國お常の物と異ありて鑛鑲と出す一色黒
 く一色赤くして黄と合むその性質何とも堅
 く緻細ある故大炮と造るお良と言ふ
 彼得爾堡府より八里ほど隔て克龍斯大的と
 言ふところの海の中お臺場三座あり島のは
 の如くお時ち立築造堅固ありて虎跳り龍
 蟠の勢方ひと有ッ今より二十二年おけお土耳
 其英吉利仏業西の三国と敵とほ我いお及むる

時英仏土の兵船爰小至りけ三ヶ所の臺場の
 為小打痿めらると終小進之攻ると能ハぐり一とぞ
 ○南峩羅斯小可薩ト云トころありけ地の人能馬
 小乗ト以て国王是ト騎兵隊トる一戦争小出
 ると貢トる一む可薩ノ入戰場ハ四辺ト
 巡邏り敵陣の斥候ト為するあり戦ひ小のぞむ
 とハ深く重地ハ攻入ツて殺戮一險危ト冒リて
 懼ル色ハ一斥候ノ時敵追来ト馬ト飛せ

走る小早く一及ぶ者ハ
 當国の舊首都莫斯科府小大ハある梵鐘あり
 寛ハ六十七忽ハ月一尺 重ハ二万二千ハ頃ハ値十五
 万兩ハ貯ルり一とるん
 まハ大砲一挺あり砲の内へ人坐りて於寛ハあり
 然ハまハども古ハへハり是ト放ち一とハきハあり
 魯西亞領の中小僧徒の數二十七万四千ありと
 其うち二十五万四千人の希臘教の宗門あり又

け惣そつの僧徒そうとの女房子にょぼうし供くわうの教きやうと合あす
五十四万人あまよ除あふ及およぶ總すべて僧徒そうとの種しゆ類るい不ふ属ぞくすもの
諸しよの運上うんじやうと脱だつるも罪つみと犯あすも刑罪けいざい其その身み体たい不
及およぶとありとらふ

魯西亞ろしや鞋がわ靴くつ一ひと名な止と百里亞國ひゃりやこくの亞細亞あしや島しまの中
ありとらふとも魯西亞ろしやと地ち続つらふて且かつ其國
の領分りやうぶんるもも爰こゝ不ふ記きす止と百里亞ひゃりやの中

○以い雨格都加領うこくたけりやうの地ち不ふ地生羊ちせいひやうとらふ物生ものうず体たい

至いたつて少すくく春はる不ふあると長ながき莖き伸のち毛茸もうじやう出いで
来きる形かたち状じやう恰たつも稔ひつ羊ひつ不ふ似にたりけ毛茸もうじやうその周まわ囲りの
草くさ卉さと蠶くわ食ふ人ひと試しし是これと切きり或あるひい刺さるど
ぬまぬまと赤あから色いろの液えき流りと出いる血ちの如ごとく採とりて食たべ
すますまと味あじひ魚蝦いしや不ふ似にて美味うまい土地とちの人ひとこも
不ふラメツと名なづ西洋せいやう襪わ記きとらふ布ぬいの中なかへ地生ちせい
羊ひつの工こうと書載しよざいらふ不ふ布ぬい草綱目くわうかうの事ことと引ひき
地生羊ちせいひつの西域せいよく不ふ出いづ羊ひつの豚へそと扱あて土中どちゆう不ふ種しゆ

溉そぐ水みづを以もつて為なるが雷かみなりの聲こゑ轟とどろくと安やすく生なず長なが
 ずの小こ及およんで脰せうを断きりて能よく行ゆけが草くさと藪やぶふ秋あき
 小こ至いたつて食たす可べし脰せうの内うちの後うしろ小種こたねあり瓏種らんたね
 羊ひつぎと名なくと

世俗せぞく小雷こかみなりの轟とどろくと脰せうを出だせば拔採ぬきとらる
 と言いふ諺ことわざあるけ地生あちせ羊ひつぎの雷かみなりの聲こゑを以もつて
 生なずるより始はまる物もの

同おなし領地りやうちのうち小大せうだいある湖水こすいあり白哈兒はくはにと云いひ

貝湖かいことも号なづく廣ひろさ二十三里にじふさんり餘よ袤ま百十里ひゃくじゆり餘よるり
 大清一統志たいせいいつしゆの中ちゆう峩羅羅斯いらくろすの條じょう小湖せうこ水すいの古こ文ぶんを記しし
 漢書かんしゆを引ひく蘇武そぶが北海ほくかいの上かみ小瓶せうびんを牧まとあるい
 名ならるけ処ところあるんと言いふけ湖水こすいの小魚せうぎよ夥おほく生なず
 又また海豹かいひょうとも産うず一年いちねんのうち小獲せうかくるところ二千ふせん
 頭びやく餘よ小至せういたつてけ地ちの北きたの方かたの海辺うみべと沙漠さばく厄やく
 鄧んとら小土地せうちの人ひと短小たんせうくして身みの長なが四尺しやく小足せうそく
 らず皆みな馴鹿じゆんろくと食糧じきりやうとるす冬ふゆの月つき小せうるり

日の光り稀薄終日日の暮ぐくの如く斯
 の如くもどぐ寒気もなまりぐく水銀酒の
 類ひとらぐも凝固りて動ぐず然とぐも復
 りぐもぐ四十日ぐの間の炎熱燬ぐぐ
 と云ふ

○堪察加とらふ所の魯西亞領の北東の外とありて寒
 さ強けとぐ草木も育ぐず人もらぐりて小
 夫由多犬を用ひて馬の代りとなる鹿と捕え

牛の如く使ふ魚と採
 り食とる山の林鹿立
 の下るぐ横穴と掘り
 て住居とるす魯西
 亜の人罪ありて島流
 しふする時へる堪察
 加へ送るあり

加摸沙都加の岬より



犬雪車

南西小當りて数多の島あり我が蝦夷の
 千島小連り接するは辺の者多く唇
 の傍り小煎とぬ一女の耳の朶へ環と下る
 と飾りとぬ
 加摸沙都加の蝦夷の千島と對ひあひの
 地ふして人家まよふ少うりて百年わど
 まへ小魯西亞の帝翁加里亞国のマニヨウス
 キと云ふ人を捕えては地ふ流せしうり人

口大り小蕃息うるとぞ

○新增白臘國ハ北極星小近さところふしてニツ
 の島あり共小魯西亞小從ふ復とりの雪
 深さ一丈餘冬小至ると百日あむの間
 暗の夜の如くふして惟折々北の方小當り
 て光りの氣んゆるのころり輿地学を勉むる
 者復の月を待て僅うふけ地小至るとり
 ども皆雪の山氷の野ふして土地とんる

能はずその北の海岸一ツの高山あり近
世獨逸国の人け山ふ銀の鑛有らんを計
り事ふ馴ぐる坑丁数百人とをりて掘らせ
る地は一年の中ふて七分夜ふて三分昼
ありと云ふ

○普魯士國のたま〜 ありて列島

○普魯士の日耳曼聯合の中ふての大なる国

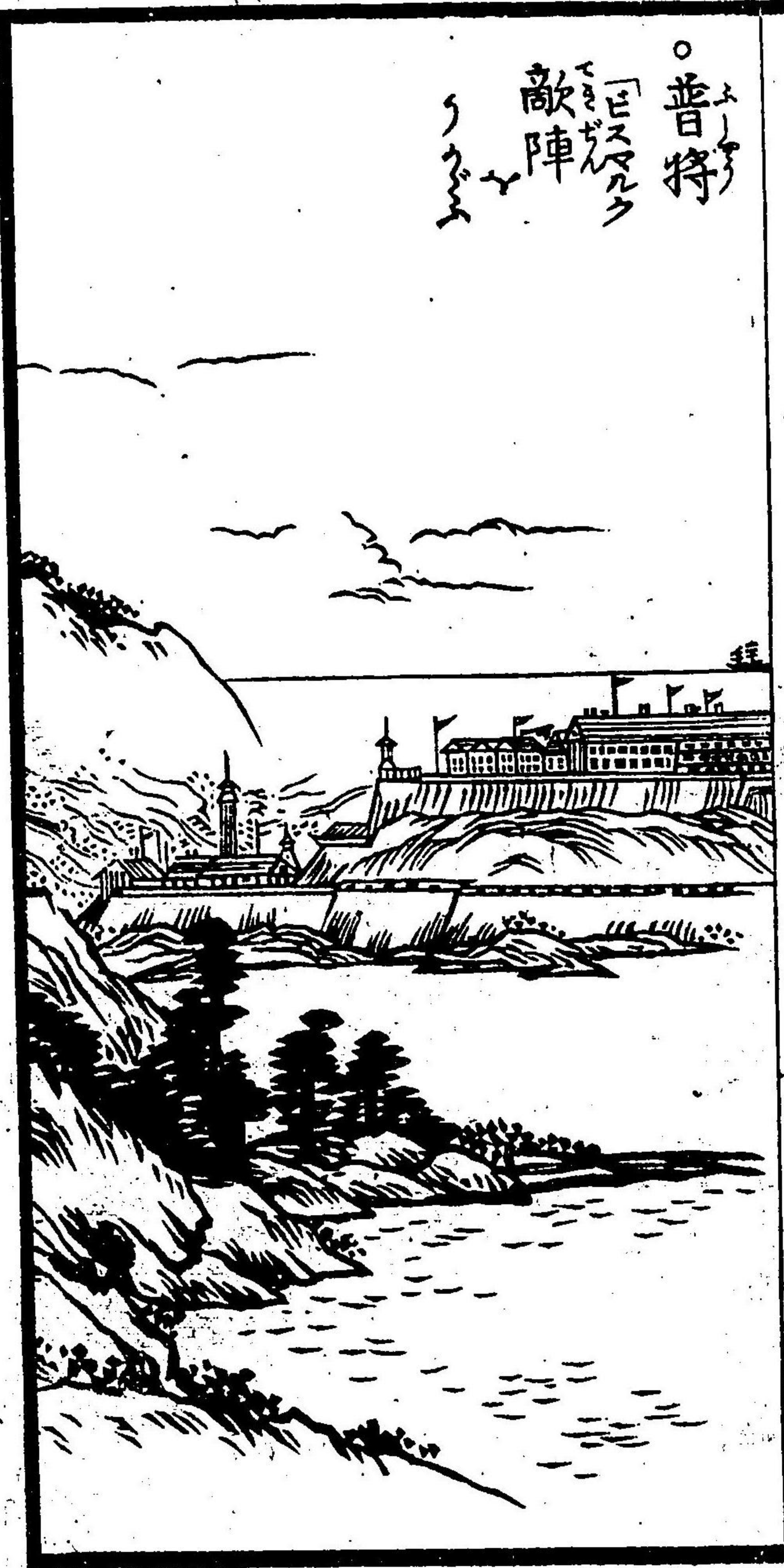
あり日耳曼聯合とりふけ四辺ふ在る大小二十五
の国々と聯ね合せ其総名を日耳曼と呼ぶあり
国の首府を伯灵とりふ元の領分少くありと
百七十年をどあふ王国とあり二代目の王
の啡哩特と云ふ人ありて又大そらふ仕出
當時の王ふ至りまぐり勢ひよく五六年
おより方々一軍を向けて日耳曼聯合のふく
と九分通り平らげ去年仏蒙西ふとも戦争ふ

及び是れも勝つて仏蒙西帝と生捕ふ事終ふ日
曼帝の位も昇りたり

○普将

敵陣

ウツム



當時普魯士の斯廣大に成りて其の旗下の大将
 小ロスマルクと云ふ人ありて人の歐羅巴及びの中
 二千年以来小をさ智者ありと他の小も由評判
 と清らるる多し然る小其ロスマルクを重く採用
 故戦争も勝小の治りも宜とらふ
 伯英の首都も往昔の日耳曼中の悪き地ありて
 今の如く小いあらざり始め和葉の海大に荒れ突波
 陸へ押揚げ住居あり難き者多く出来けり其

難と避て當所小来り四本柱の家を造り爰小住む
 者数千人の仮家とコルンと称ふ今伯英の府内
 小在るコルンと云ふところの則是あり
 此国の学問の世話行届くと世界第一ありて悪
 事と為り率へ入るとる者小ても率の中小師匠
 を置書物を渡して是を教え読むるとり
 當府の大炮の名所あり高き品小より一挺小付
 價五万兩と過るりのあり



府内の花園ふ花も葉も
 共ふ五色ある樹二株あり
 詠の美しきみ比あるふの
 ろー其名と知らず
 け国ふ怪しむ可さ湖水あ
 り周田頗る大き其水
 三年の間ハ満湛えん夥ど
 しく臭蝦と生ト次の三年

の間の水乾涸て耕作をふる小宜しとぞ

○維士奈里刃の中謬塞河と来因河と落合てツ

お成て流る四辺ふの野も山も人の庭も葡萄もら

ざる所あく是と作る夥ぐ白ら葡萄もま

在り故ふけ葡萄を以て種々の名酒を作り

是と来因酒と号けて世畧中へ積送ると夥ぐ

け国の都府哥羅尼とよ所ふ大いなる耶蘇宗

の寺あり六百年ぶふ是と建てあひ年と積

造作とぬきども未だお全く出来上らず然とど
 も其普請の築構築建の奇妙と極め歐羅
 巴の人々稱して世夷の才一とぬるとぞ
 當町ふて香水と製し年々数万の瓶を賣出し
 是と哥羅尼水と号け冷く世上へ行渡り又
 亞金とらふ都府あり往昔の英傑仏蒙西の帝
 查爾曼とらふ人爰お住居し後まこけ地お終
 りてとと帝の墓あり十年をどおのころの

争論より誠の帝の墓ありや否やと見届んとて
 歐羅巴中の国々の使節も究理の学者も爰
 お集會其墓所と掘かりしるお嚴重美麗なる
 棺の中お帝の遺骸依然とて形体と崩さず
 元の俣おて有りとらふ

同国維土巴敦とらふ地お名高き湯治場あり温
 泉四十箇所より湧出旅店の構え園の設け清く
 して美しさと冬夏お至ると遠近の抱人

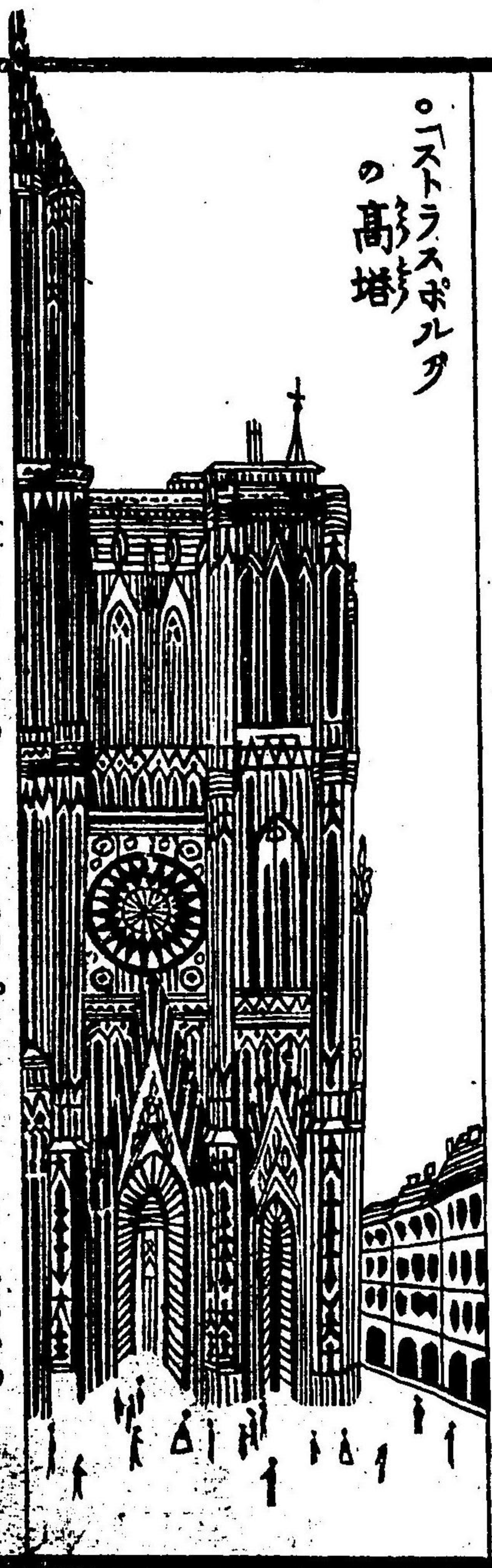
涼いさと探りて集ひ来ると我が箱根の湯場伊豆の熱海も同一

○仏蒙佛国ふもんぼくこくふふと同一名なの都府とほありけ処ところは歐羅巴えうらの中なかふく第一番だいいちばんの豪富ごうふロツチルス氏うぢの住居すまひあり當地とうちは商業あうぎやうと起おこて今いまは各国くわこくの大都會たいくわいふふ必ず出店でせと設おくるとぞ

○亞撒西国あさすいこくの元日耳曼げんにつまんの附屬ふぞくありと仏蒙西小取ふもんせいせうとと去き年ねんはくく仏蒙西ふもんせいとの戦争せんじやうは勝かちて取戻とりかへ

しる地ちあり斯達拉斯堡すたらすほらほといふ都府とほは大いなる寺てら在ありて高さ塔たう建たり直立ちかたふりて頂上ちやうじやうは七十七

○ノストラスポルタの高塔



間ま四尺しやくありけ塔たうを以もて歐羅巴えうらの中なかの第一だいいちとす
○薩索尼国ささおにこくの易北河えきへくの四辺しへんは風景ふうけいよく繪えふも書得かきえ

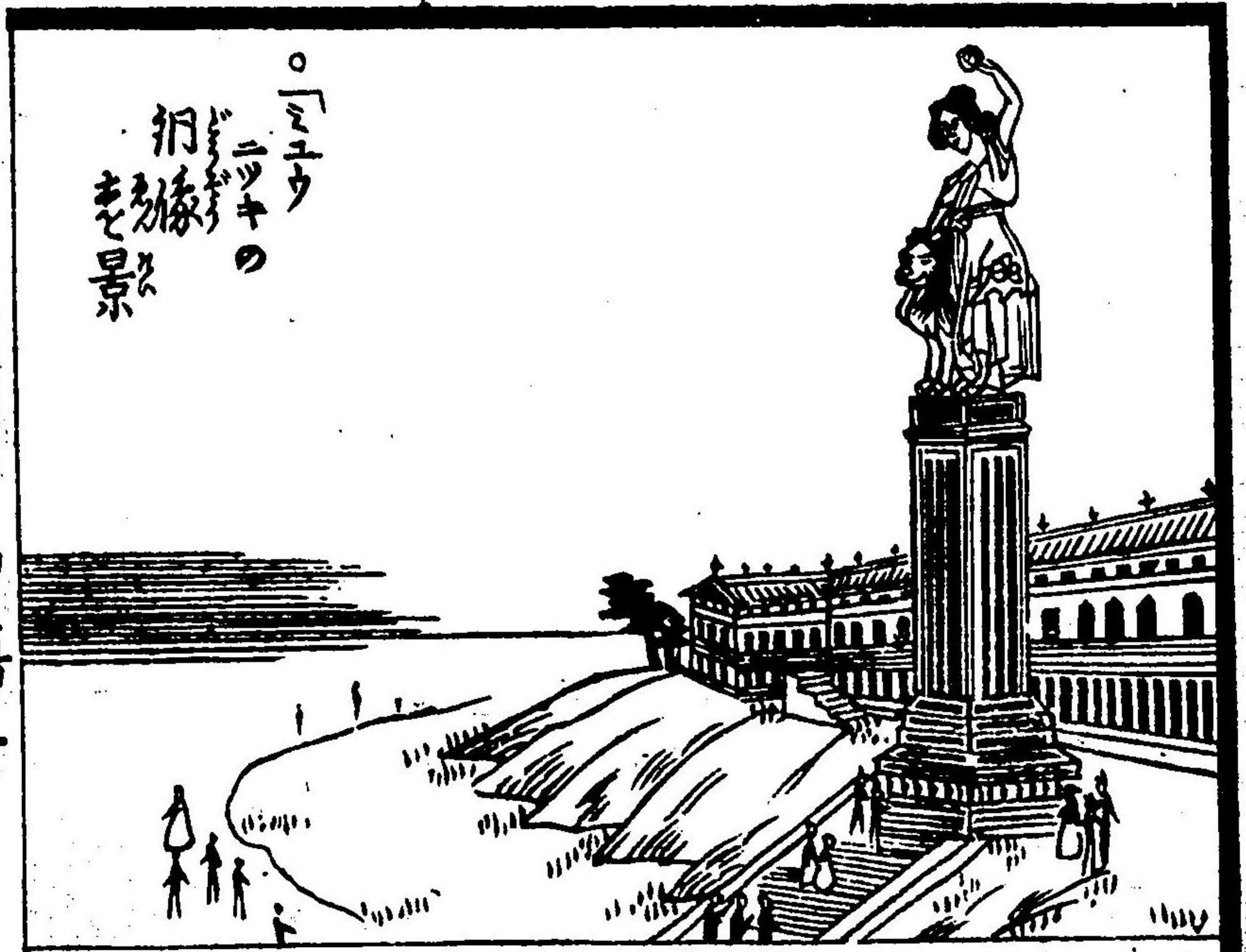
びら程のとりふりて其最奇妙ある丸柱と
 建るが如き大石毅然として路の両服を連り
 聳ゆ其高さ十丈余又の溪河の流の上の石
 重り合て両の岸より段々突出し中より小
 至る互ひ小接りて天然の橋とぬせるありて
 巖橋と号く又コレセンと云ふ所より山をへ入りて
 石と積上げて造るる飛橋ありけ橋の上より眺望
 遠近の風景千態万状極りなるとありあり

同国易北河の流の下にマイゼンといふ所あり陶器
 と作り出すと夥しけ地を以て歐羅巴中の瀬戸
 物と焼の元祖とぬす

又来責といふ城下の名高き大学校有と以て書肆
 至つて多く世畧中ふて書物と商ふの澤ある英吉
 利の倫敦仏蒙西の巴黎斯の来責の町とぬす
 とぞけ四辺の高名の故戦場ふりて今より五十九
 年お仏蒙西帝拿破崙といふ人三十万の兵と

將ひ来り 埃地利国 普魯士国と始め 自耳曼列国
 の大軍と三日三夜の戦ひ 小拿破崙敗して 後終
 小捕虜とあり け時双方の討死 三万を人小
 及ぶ 其大軍あると知るべし

○巴威里国の靡尼克といふ府下 小銅を以て造り
 廣大なる女神の像あり 高さ十六間 腹の中 小階
 子ありて 段々 小是を昇とて 顔の中へ 至る 両方の
 眼の玉の穴より 遠近と眺望あり 當時 世界中



○「ミニナ」
 ニツキの
 羽像
 きと景

才一の銅像とある 巴丁国の
 歐羅巴中央の高地ありて 諸
 方の大川の皆この所を以て 水
 源と為す 故に 諺に 一軒の
 家の屋根より 零る 雨 一方の
 流きて 来 因河より 北海へ
 注ぐ 一方の流きて 多惱川へ
 入りて 黒海へ 達すと云ふ

水路の混雜まじり多おほく以もつておほるべし

日耳曼国にやまにくにの人の天資あまのあはれ信実まことふりて思慮しりぞ深造ま物ものふ

附つて發明あきらめおぼつぐ勉強つとめく倦うてまり正直まこと誠まこと忠まことを愛あ

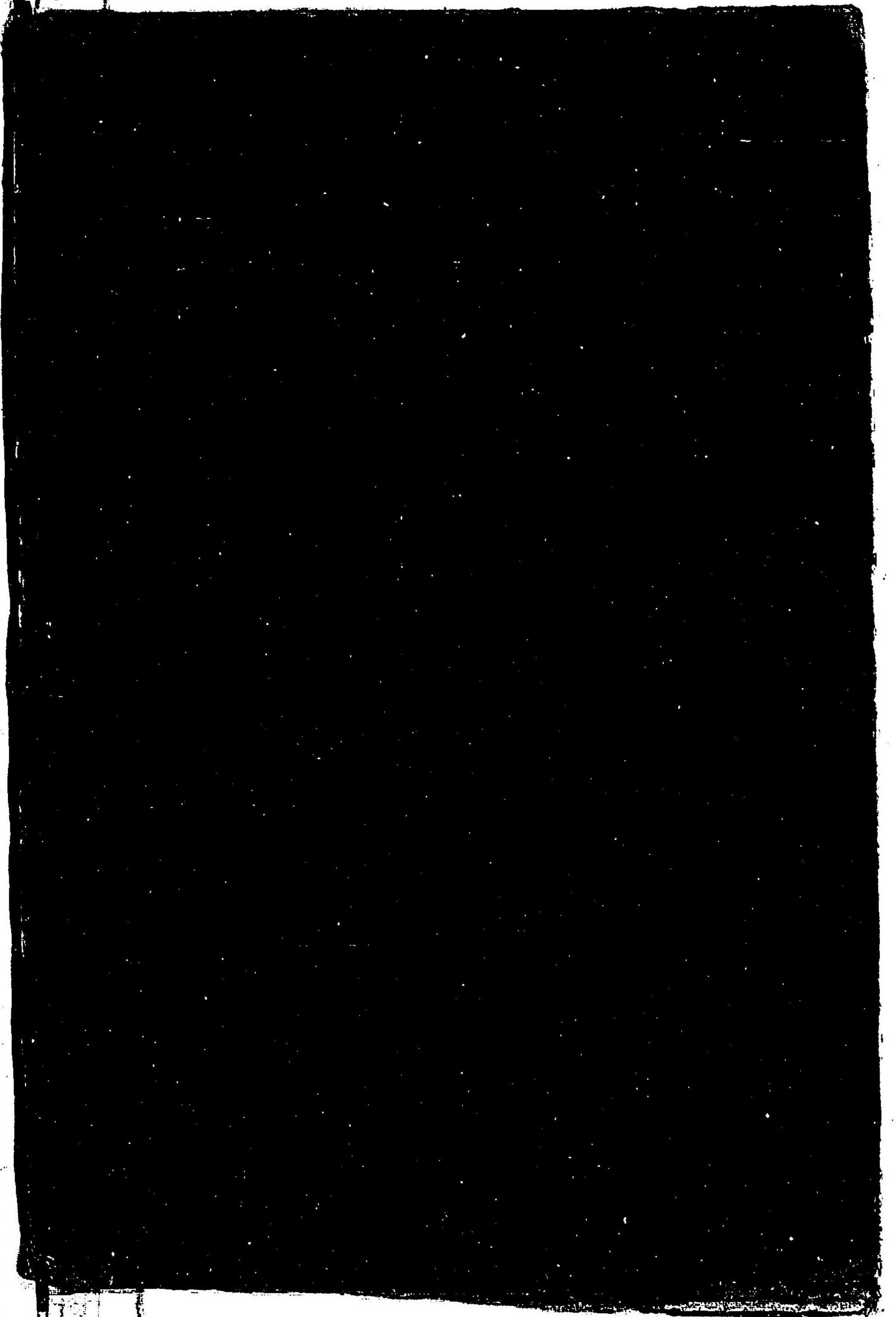
一喜よろこぶ然ごときとも寡弱いさよと侮あり高貴たかふ諂へつらふの過あや

失まるまらまり能あはず又また人の下したお立たて嫌きらふ因よりて勇猛ゆう

あり勅敵まかと摧くださ奇績きせきと顯あらはすあ足あらあと一書ひとめめをえ

く

萬國百物語一終



特32
233

大日本教育會館
第 四 架
第 四 號
冊

022321-001-4

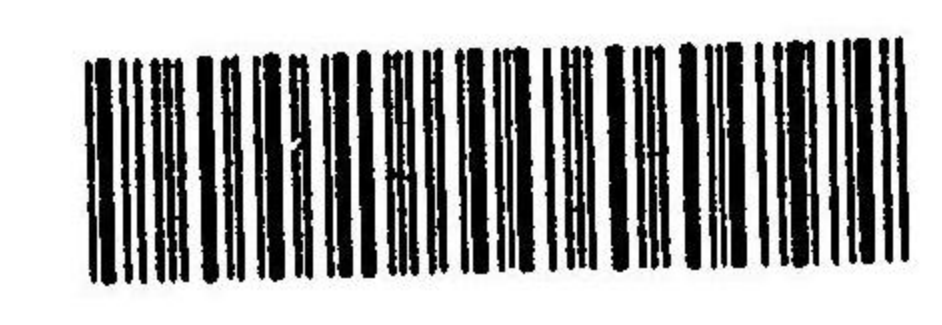
特32-233

万国百物語 卷之1-4

瓜生 政和/編

[刊年不明]

ADA-0832



特32
233

